



DxO Optics Pro v4.5 リリースノート (build 4126)

v4.1.1と比較しての新機能。

- 富士フィルムカメラ FinePix S3 Pro が新たにサポートされました。
- 富士フィルムカメラ FinePix S5 Pro が新たにサポートされました。
- ペンタックスカメラ K10D が新たにサポートされました。
- Vista との互換性実現。
- キーストーン・水平調整対応の自動クロップ。
- GPU 活用による処理速度アップ

ウィンドウズ版：

v4.1.1と比較しての改善点

- ホワイトバランスのスポイトツールを、スタック、または複数選択されている画像の一枚に使うと、
 - それが RGB 画像上の場合、プロジェクト画面で複数選択されているすべて RGB 画像、またはスタックの中の全ての RGB 画像に適応されます。
 - それが Raw 画像上の場合、プロジェクト画面で複数選択されているすべて Raw 画像、またはスタックの中の全ての Raw 画像に適応されます。

現在わかっている問題点

- プロジェクト画面下の (横並び表示の) 複数の画像：
 - 画像を右クリックし、次にコンテキストメニューから《作業中のバッチに追加》を選択した場合、処理されていないような感じを与えますが、実行されています。
- 《画質向上》タブ：
 - DxO Color - マルチポイントカラーバランス
 - 設定パネル (四角いボックス) の色表示とプレビューの色表示が一致しません。(DxO Lighting, HSL と、トーンカーブは設定パネルのカラースクエアには適応されません。) これはカラーレンディングが変更されたことを意味するものではありません。プレビューの色表示が、処理された画像の実際の色表示です。

- 《処理》タブ：
 - バッチ処理の進捗状況表示バーが正確ではありません。
 - エラーメッセージ、または《API ステータスが不明：x x》メッセージ：
 - 画像の中には補正処理されず、エラーを起こすものがあります。
当面の解決方法：画像の処理を再度行ってください。《API ステータスが不明：- 5 0》のメッセージが表示される場合、ハードウェアの必須要項を確認してください。お使いのコンピュータが対応していない可能性があります。
- ニコンキャプチャ/ニコンビュー
 - 撮影時に、カメラが縦か横であったかの情報をもった JPEG 画像は、DxO Optics Pro で補正処理され、Tiff 形式で保存された後、再びニコンキャプチャ 4 . 4 で開くことが出来ません。
 - 撮影時に、カメラが縦か横であったかの情報をもった JPEG 画像のサムネイルは、DxO Optics Pro で補正処理された後、ニコンキャプチャで再び開いたとき正しく回転されていません。
 - 撮影時に、カメラが縦か横であったかの情報をもった RAW 画像のサムネイルは、DxO Optics Pro で補正処理され、Tiff 形式で保存された、ニコンキャプチャまたはニコンビューで再び開いたとき正しく回転されていません。
 - 撮影時に、カメラが縦か横であったかの情報をもった RAW 画像は、DxO Optics Pro で補正処理され、Tiff 形式で保存された後、ニコンキャプチャまたはニコンビューで再び開いたとき正しく回転されていません。
- DNG 形式で画像が保存された場合、IPTC データは DxO Optics Pro でリライトされていません。
- 表示タブ
 - ファイル名に特殊文字が使われている場合、バッチ処理の後、補正済みの画像が表示されない。プロジェクトを一度閉じて再び開くと問題なく表示される。
- Flickr (フリッカー) エクスポート
 - フリッカータグに、特殊文字を入れることが出来ない。これはフリッカー側による制限です。
- Lightroom 用 DxO Optics Pro Plug プラグイン
 - Adobe® Lightroom™ の現像モードから、DxO Optics Pro プラグインにエクスポートできない。エクスポート作業は必ず「ライブラリ」モードで行う必要があります。
- GPU (Graphics Processing Unit) 高速化 (処理)
 - ATI 製のグラフィックボードが内蔵されているコンピュータでは、Raw (NEF) 画像が、白と黒のチエッカー模様で表示される場合があります。
当面の解決方法：編集メニュー>プリファランス>全般タブを開き、〔GPU 高速化 (処理)〕のオプションをオフにしてください。

マッキントッシュ：

現在わかっている問題点

- GPU (Graphics Processing Unit) 高速化 (処理)
 - プレファランスの GPU チェックボックスが、内蔵されたグラフィックカードが使えるものであっても常にチェックされていない状態でグレーアウトされている。このため、このチェックボックスをアンチェック (無効) にすることができない。

当面の解決法：GPU チェックボックスを無効にするためには、アプリケーション>ユーティティから、ターミナル画面を開いて、次のコマンドを入力してください。

« defaults write com.dxo.DxOOpticsPro4 DXOGeneralPrefsUseGPU 0 ».

GPU チェックボックスを有効にするためには、ターミナル画面に以下のコマンドを入力してください。

« defaults write com.dxo.DxOOpticsPro4 DXOGeneralPrefsUseGPU 1 »

- GPU 高速化 (処理) が有効になっていると、Konica Minolta 5D と Konica Minolta 7D (カメラ本体) の Raw 画像上のハイライトのゾーンがピンク色になる。GPU 高速化 (処理) を無効にする場合は、以上の手順に従ってください。
- プロジェクト画面下の (横並び表示) の複数の画像 (フィルムストリップ)
 - スタックからコンテキストメニューを開き、「現在のバッチに追加」を選択すると、一番上のマスター画像、またはスタックを広げたときに選択された画像にしか適応されない。
 - 一つの画像に複数のモジュールが適応可能な場合、対応モジュールを選択するまで、「赤いカメラ」のアイコンがサムネイル画像上に表示される。
- MAC OS X, バージョン 10.3.8 以前のはサポートしていません。DxO Optics Pro を使うには、バージョン 10.3.9 にアップデートしてください。
- 《画質向上タブ》：
 - DxO Color - マルチポイントカラーバランス
 - 設定パネル (四角いボックス) の色表示とプレビューの色表示が一致しない。 (DxO Lighting, HSL とトーンカーブは設定パネルのカラースクエアには適応されません。) これはカラーレンディングが変更されたことを意味するものではありません。プレビューの色表示が、処理された画像の実際の色表示です。
 - まれに、プレビュー画面が黒く表示されたり、画像の入れ替えが起きなくなったりします。
当面の解決方法：画像を選択しなおしてください。
- クラッシュ：
 - プロジェクト画面に画像をインポートする際、まれにクラッシュが起きることがあります。
- ファインダから直接プロジェクトを開く場合、DxO Optics Pro は起動しますが、プロジェクトはもう一度選択して開く必要があります。
- プログラムの画面を縮小してドックに入れることが出来ません。
- プラグイン：
 - DxO Optics Pro プラグインで設定されている形式が複数の場合、DxO Optics Pro プラグインから DNG 形式の画像を転送出来ません。
- 《処理》タブ：
 - Compressed output TIFF 8 ビットの圧縮出力ですが、画像によっては、圧縮された TIFF 出力の方が、もとの画像より大きい場合があります。これは主に、画像の中身によります。
- ニコンキャプチャー/ニコンビュー：
 - 撮影時に、カメラが縦か横であったかの情報をもった JPEG 画像は、DxO Optics Pro で補正処理され、Tiff 形式で保存された後、再びニコンキャプチャ 4 . 4 で開くことが出来ません。
 - 撮影時に、カメラが縦か横であったかの情報をもった JPEG 画像のサムネイルは、DxO Optics Pro で補正処理された後、ニコンキャプチャで再び開いたとき正しく回転されていません。
 - 撮影時に、カメラが縦か横であったかの情報をもった RAW 画像のサムネイルは、DxO Optics Pro で補正処理され、Tiff 形式で保存された、ニコンキャプチャまたはニコンビューで再び開いたとき正しく回転されていません。

- 撮影時に、カメラが縦か横であったかの情報をもった RAW 画像は、DxO Optics Pro で補正処理され、Tiff 形式で保存された後、ニコンキャプチャまたはニコンビューで再び開いたとき正しく回転されていません。
- プリセットコンバータ：
 - v3.5 で設定されたプリセットをコンバートすることが出来ません。しかし、v 3 で作成されたサイドカーは v 4 を起動時に自動的にコンバートされます。
- DNG 形式で画像が保存された場合、IPTC データは DxO Optics Pro でリライトされていません。

お客様へのお願い：

- DxO Color パネルでの補正を行うとき、パネル内で表示されているのと同じ順番で作業を行ってください。(補正項目をリストの一番上から順番に適応する。)
- ジオメトリ補正中、キーストーン / 水平補正をする前に、まずディストーション補正の設定を、スライダーまたはボタンで行ってください。
- カスタム ICC プロファイルをインポートする際、お客様の使っているプロファイルで定義されたカラーレンディングを変えたくない時は、マルチポイント カラーバランスツールと《ポートレート》と《景色》の 2 つのカラーモードを使わないでください。
- ハイライト補正と DxO Lighting の組み合わせ効果を最大限活用するためには、2 つの補正の強さをシンク口させてください。(例： 少し-少し、普通-普通、強く-強く)
- マッキントッシュでは《自動時刻シンクロナイザー》をオフにすることをお勧めいたします。これはライセンス認証作業に支障をきたす恐れがあります。

DxO Download Manager v2.2 (DxOダウンロードマネージャ)

V2.1と比較しての改善点

- 全てのコンポーネントをダウンロードせず、アップデートされたものだけをダウンロードすることが可能になりました。

現在わかっている問題点

- ファイヤーフォックスを使つての DxODMSetup.dmg ファイルのダウンロードが正常に出来ません。
当面の解決方法：サファリを使ってください。

DxO Optics Pro v4.1.1 リリースノート (build 3025)

v4.1と比較しての新機能。

- Nikon D40 が新たにサポートされました。

ウィンドウズ版：

v4.1と比較しての改善点

- 《画質向上》タブ：
 - EXIF エディタ：複数の画像が選択されている場合でも、EXIF データの設定ができるようになりました。
 - プロジェクト画面の下の横並び表示のサムネイルをダブルクリックしても、画面がフリーズすることはなくなりました。
- 《表示》タブ：
 - 《全てのバッチ》を選択したときに、スクロールバーが使えるようになりました。
- 《自動的にアップデートをチェックする》選択時に発生していた問題は解決しました。
- プリセットコンバータ：
 - クロップの設定も、バージョン4のプリセットに転送されるようになりました。

現在わかっている問題点

- プロジェクト画面下の（横並び表示の）複数の画像：
 - まず画像を右クリックし、次に《作業中のバッチに追加》をクリックした場合、処理されていないような感じを与えますが、実行されています。
- 《画質向上》タブ：
 - DxO Color - マルチポイントカラーバランス
 - 設定パネル（四角いボックス）の色表示とプレビューの色表示が一致しません。（DxO Lighting, HSL と、トーンカーブは設定パネルのカラースクエアには適応されません。）これはカラーレンディングが変更されたことを意味するものではありません。プレビューの色表示が、処理された画像の実際の色表示です。
- 《処理》タブ：
 - バッチ処理の進捗状況表示バーが正確ではありません。
 - エラーメッセージ、または《API ステータスが不明：x x》メッセージ：
 - 画像の中には補正処理されず、エラーを起こすものがあります。
当面の解決方法：画像の処理を再度行ってください。《API ステータスが不明：- 5 0》のメッセージが表示される場合、ハードウェアの必須要項を確認してください。お使いのコンピュータが対応していない可能性があります。
- ニコンキャプチャ/ニコンビュー

- 撮影時に、カメラが縦か横であったかの情報をもった JPEG 画像は、DxO Optics Pro で補正処理され、Tiff 形式で保存された後、再びニコンキャプチャ 4 . 4 で開くことが出来ません。
- 撮影時に、カメラが縦か横であったかの情報をもった JPEG 画像のサムネイルは、DxO Optics Pro で補正処理された後、ニコンキャプチャで再び開いたとき正しく回転されていません。
- 撮影時に、カメラが縦か横であったかの情報をもった RAW 画像のサムネイルは、DxO Optics Pro で補正処理され、Tiff 形式で保存された、ニコンキャプチャまたはニコンビューで再び開いたとき正しく回転されていません。
- 撮影時に、カメラが縦か横であったかの情報をもった RAW 画像は、DxO Optics Pro で補正処理され、Tiff 形式で保存された後、ニコンキャプチャまたはニコンビューで再び開いたとき正しく回転されていません。
- DNG 形式で画像が保存された場合、IPTC データは DxO Optics Pro でリライトされていません。

マッキントッシュ :

v4.1と比較しての改善点

- 《画質向上タブ》 :
 - フランス語版の DxO FilmPack で、《カラーポジフィルム》と《カラーネガフィルム》のラベルが逆になっていたのが修正されました。
 - ズームの状態にかかわらず、プレビュー画面でキーストーン / 水平補正が確認できるようになりました。
- DxO Optics Pro 4 メニューから、ヘルプコマンドが利用できるようになりました。
- プラグイン :
 - マック OS 10.3.9 に対応しています。

現在わかっている問題点

- MAC OS X, バージョン 10.3.8 以前のものにはサポートしておりません。DxO Optics Pro を使うには、バージョン 10.3.9 にアップデートしてください。
- 《画質向上タブ》 :
 - DxO Color - マルチポイントカラーバランス
 - 設定パネル (四角いボックス) の色表示とプレビューの色表示が一致しない。 (DxO Lighting, HSL とトーンカーブは設定パネルのカラースクエアには適応されません。) これはカラーレンディングが変更されたことを意味するものではありません。プレビューの色表示が、処理された画像の実際の色表示です。
 - まれに、プレビュー画面が黒く表示されたり、画像の入れ替えが起きなくなったりします。
当面の解決方法 : 画像を選択しなおしてください。
- クラッシュ :
 - プロジェクト画面に画像をインポートする際、まれにクラッシュが起きることがあります。
- ファインダから直接プロジェクトを開く場合、DxO Optics Pro は起動しますが、プロジェクトはもう一度選択して開く必要があります。
- プログラムの画面を縮小してドックに入れることが出来ません。

- プラグイン :
 - DxO Optics Pro プラグインで設定されている形式が複数の場合、DxO Optics Pro プラグインから DNG 形式の画像を転送出来ません。
- 《処理》タブ :
 - Compressed output TIFF 8 ビットの圧縮出力ですが、画像によっては、圧縮された TIFF 出力のほうもとの画像より大きい場合があります。これは主に、画像の中身によります。
- ニコンキャプチャー/ニコンビュー :
 - 撮影時に、カメラが縦か横であったかの情報をもった JPEG 画像は、DxO Optics Pro で補正処理され、Tiff 形式で保存された後、再びニコンキャプチャ 4 . 4 で開くことが出来ません。
 - 撮影時に、カメラが縦か横であったかの情報をもった JPEG 画像のサムネイルは、DxO Optics Pro で補正処理された後、ニコンキャプチャで再び開いたとき正しく回転されていません。
 - 撮影時に、カメラが縦か横であったかの情報をもった RAW 画像のサムネイルは、DxO Optics Pro で補正処理され、Tiff 形式で保存された、ニコンキャプチャまたはニコンビューで再び開いたとき正しく回転されていません。
 - 撮影時に、カメラが縦か横であったかの情報をもった RAW 画像は、DxO Optics Pro で補正処理され、Tiff 形式で保存された後、ニコンキャプチャまたはニコンビューで再び開いたとき正しく回転されていません。
- プリセットコンバータ :
 - v3.5 で設定されたプリセットをコンバートすることが出来ません。しかし、v 3 で作成されたサイドカーは v 4 を起動時に自動的にコンバートされます。
- DNG 形式で画像が保存された場合、IPTC データは DxO Optics Pro でリライトされていません。

お客様へのお願い :

- DxO Color パネルでの補正を行うとき、パネル内で表示されているのと同じ順番で作業を行ってください。(補正項目をリストの一番上から順番に適応する。)
- ジオメトリ補正中、キーストーン / 水平補正をする前に、まずディストーション補正の設定を、スライダーまたはボタンで行ってください。
- カスタム ICC プロファイルをインポートする際、お客様の使っているプロファイルで定義されたカラーレンディングを変えたくない時は、マルチポイント カラーバランスツールと《ポートレート》と《景色》の 2 つのカラーモードを使わないでください。
- ハイライト補正と DxO Lighting の組み合わせ効果を最大限活用するためには、2 つの補正の強さをシンクロさせてください。(例 : 少し-少し、普通-普通、強く-強く)
- マッキントッシュでは《自動時刻シンクロナイザー》をオフにすることをお勧めいたします。これはライセンス認証作業に支障をきたす恐れがあります。

DxO Download Manager v2.1 (DxOダウンロードマネージャ)

V2.0と比較しての改善点

- ウィンドウズ対応のコンピュータを使って、マック用のインストールファイルのダウンロードが可能になりました。

現在わかっている問題点

- ファイヤーフォックスを使つての DxODMSetup.dmg ファイルのダウンロードが正常に出来ません。
当面の解決方法：サファリを使つてください。

DxO Optics Pro v4.1 リリースノート (build 2158)

ウィンドウズ版：

v4.0.2と比較しての改善点

- 《画質向上》タブ；
 - 処理前/処理後の画像が、横に並んで表示されたとき、画像内をハンドツールを使って画像内の移動が出来るようになりました。
 - EXIF エディタ：# や \$ などの特殊記号を使えるようになりました。
- 《処理》タブ；
 - ファイル名称やファイルパスに “&” を含むものも、処理できるようになりました。（エラーメッセージや《API ステータスが不明：x x》メッセージは出ません）
- ヘルプメニューからヘルプコマンドを使うことが出来るようになりました。“Doc” フォルダに入っているユーザズガイドを表示します。ただし、プログラムのダウンロードの際に、一緒にダウンロードされている必要があります
- プラグイン；
 - DxO Optics Pro を使って、DNG 形式でインポート、及び処理された画像のフォトショップへの転送の際、エラーメッセージが出なくなりました。
- DxO Optics Pro を使って IPTC データをリライトすることが出来る様になりました。ただし、これは JPEG と TIFF 形式で保存された場合で、DNG 形式ではできません。
- DxO Optics Pro で処理された TIFF 形式画像上のキャノンのメーカーノートが、標準的な EXIF の読み込みツールで読めるようになりました。

現在わかっている問題点

- プロジェクト画面下の（横並び表示）複数の画像
 - 処理中のバッチに新しく画像を追加するには、まず画像を左クリックし、次に《作業中のバッチに追加》をクリックしてください。
- 《画質向上》タブ；
 - DxO Color – マルチポイントカラーバランス
 - 設定パネル（四角いボックス）の色表示とプレビューの色表示が一致しない。（DxO Lighting, HSL と、トーンカーブは設定パネルのカラースクエアには適応されません。）これはカラーレンディングが変更されたことを意味するものではありません。プレビューの色表示が、処理された画像の実際の色表示です。
 - EXIF エディタ： 複数の画像が選択されている場合、EXIF データの設定ができません。
当面の解決方法：プリセットを使って、EXIF データを保存し、複数の画像に一度に適応してください。
 - プロジェクト画面のサムネイルをダブルクリックすると、画面がフリーズしてしまう。
当面の解決方法：全ての画像の選択を無効にして、画像一つ一つをシングルクリックする。
- 《処理》タブ

- バッチ処理の進捗状況表示バーが正確ではない。
- エラーメッセージ、または《API ステータスが不明： x x》メッセージ：
 - 画像の中には補正処理されず、エラーを起こすものがあります。
当面の解決方法：画像の処理を再度行ってください。《API ステータスが不明： - 5 0》のメッセージが表示される場合、ハードウェアの必須要項を確認してください。お使いのコンピュータが対応していない可能性があります。
- 《表示》タブ：
 - 《全てのバッチ処理》の、スクロールバーが使えません。
- 《自動的にアップデートをチェックする》を選択すると、CPU に負担をかけ、結果的にコンピュータの処理速度をかなり落とすこととなります。
当面の解決方法：自動アップデートチェックをオフにし、必要に応じて手動で行ってください。
- ニコンキャプチャ/ニコンビュー
 - 撮影時に、カメラが縦か横であったかの情報をもった JPEG 画像は、DxO Optics Pro で補正処理され、Tiff 形式で保存された後、再びニコンキャプチャ 4 . 4 で開くことが出来ません。
 - 撮影時に、カメラが縦か横であったかの情報をもった JPEG 画像のサムネイルは、DxO Optics Pro で補正処理された後、ニコンキャプチャで再び開いたとき正しく回転されていません。
 - 撮影時に、カメラが縦か横であったかの情報をもった RAW 画像のサムネイルは、DxO Optics Pro で補正処理され、Tiff 形式で保存された、ニコンキャプチャまたはニコンビューで再び開いたとき正しく回転されていません。
 - 撮影時に、カメラが縦か横であったかの情報をもった RAW 画像は、DxO Optics Pro で補正処理され、Tiff 形式で保存された後、ニコンキャプチャまたはニコンビューで再び開いたとき正しく回転されていません。
- プリセットコンバータ
 - クロップの設定は、バージョン 4 のプリセットには転送されません。
- DNG 形式で画像が保存された場合、IPTC データは DxO Optics Pro でリライトされていません。

マッキントッシュ：

現在わかっている問題点

- MAC OS X, バージョン 10.3.8 以前のはサポートしておりません。DxO Optics Pro を使うには、バージョン 10.3.9 にアップデートしてください。
- 《画質向上タブ》：
 - フランス語版の DxO FilmPack で、《カラーポジフィルム》と《カラーネガフィルム》のラベルが逆になっている。
 - DxO Color - マルチポイントカラーバランス
 - 設定パネル (四角いボックス) の色表示とプレビューの色表示が一致しない。(DxO Lighting, HSL とトーンカーブは設定パネルのカラースクエアには適応されません。) これはカラーレンディングが変更されたことを意味するものではありません。プレビューの色表示が、処理された画像の実際の色表示です。
 - まれに、プレビュー画面が黒く表示されたり、画像の入れ替えが起きなくなったりします。
当面の解決策：画像を選択しなおしてください。

- まれに (現在はっきりとして原因は不明ですが) ズームが 38% 以下だと、パースの補正がプレビュー画面に反映されないことがあります。
- クラッシュ :
 - プロジェクト画面に画像をインポートする際、まれにクラッシュが起きることがあります。
- フォルダから直接プロジェクトを開くことが出来ない。
- プログラムの画面を縮小してドックに入れることが出来ない。
- DxO Optics Pro 4 メニューのヘルプコマンドが使えない。
ユーザーズガイドは、フォルダ内の“Doc”フォルダに入っています。
- プラグイン :
 - DxO Optics Pro プラグインで設定されている形式が、DNG 形式だけの場合、DxO Optics Pro プラグインで画像をインポートできない。
- 《処理》タブ :
 - Compressed output TIFF 8 ビットの圧縮出力ですが、画像によっては、圧縮された TIFF 出力のほうもとの画像より大きい場合があります。これは主に、画像の中身によります。
- ニコンキャプチャー / ニコンビュー :
 - 撮影時に、カメラが縦か横であったかの情報をもった JPEG 画像は、DxO Optics Pro で補正処理され、Tiff 形式で保存された後、再びニコンキャプチャ 4 . 4 で開くことが出来ません。
 - 撮影時に、カメラが縦か横であったかの情報をもった JPEG 画像のサムネイルは、DxO Optics Pro で補正処理された後、ニコンキャプチャで再び開いたとき正しく回転されていません。
 - 撮影時に、カメラが縦か横であったかの情報をもった RAW 画像のサムネイルは、DxO Optics Pro で補正処理され、Tiff 形式で保存された、ニコンキャプチャまたはニコンビューで再び開いたとき正しく回転されていません。
 - 撮影時に、カメラが縦か横であったかの情報をもった RAW 画像は、DxO Optics Pro で補正処理され、Tiff 形式で保存された後、ニコンキャプチャまたはニコンビューで再び開いたとき正しく回転されていません。
- プレセットコンバータ :
 - v3.5 で設定されたプリセットをコンバートすることが出来ない。

お客様へのお願い :

- DxO Color パネルでの補正を行うとき、パネル内で表示されているのと同じ順番で作業を行ってください。(補正項目をリストの一番上から順番に適応する。)
- ジオメトリ補正中、キーストーン / 水平補正をする前に、まずディストーション補正の設定を、スライダーまたはボタンで行ってください。
- カスタム ICC プロファイルをインポートする際、お客様の使っているプロファイルで定義されたカラーレンディングを変えたくない時は、マルチポイント カラーバランスツールと《ポートレート》と《景色》の 2 つのカラーモードを使わないでください。
- ハイライト補正と DxO Lighting の組み合わせ効果を最大限活用するためには、2 つの補正の強さをシンクロさせてください。(例 : 少し-少し、普通-普通、強く-強く)
- マッキントッシュでは《自動時刻シンクロナイザー》をオフにすることをお勧めいたします。これはライセンス認証作業に支障をきたす恐れがあります。

DxO Download Manager (DxOダウンロードマネージャ)

現在わかっている問題点

- ウィンドウズ対応のコンピュータを使って、マック用のインストールファイルをダウンロード出来ません。
- ファイヤーフォックスを使っての DxODMSetup.dmg ファイルのダウンロードが正常に行えない。

当面の解決策：サファリを使ってください。

DxO Optics Pro v4.0.1 に関するリリースノート

v 4.0.0と比較しての改善点

- コンピュータシステムの特定の設定において発生していた、起動後のクラッシュの問題は解決しました。
- フランス語版とドイツ語版でも、アウトプット設定でカスタム解像度とカスタムサイズが利用できるようになりました。
- 全ての言語版で、翻訳上の校正を行いました。

DxO Optics Pro v4.0.0 に関するリリースノート

既知の問題点

- 《画質向上》タブに関して：
 - DxO Color - マルチポイント カラーバランス
 - 設定パネル (四角いボックス) の色表示とプレビューの色表示が一致しない。(DxO Lighting, HSL とトーンカーブは設定パネルのカラースクエアには適応されません。) これはカラーレンディングが変更されたことを意味するものではありません。プレビューの色表示が、処理された画像の実際の色表示です。
 - 処理前 / 処理後の画像が並んで表示される時、ハンドツールで画像内の移動が出来ない。
解決方法：プレビュー表示に対応する《ズーム》パネル内の《緑の四角い枠線》を移動してください。
 - Exif エディタ：エディタ内で、ある種の特殊な文字 (# や \$) を使うと、補正処理が出来なくなります。
- 《処理》タブに関して
 - Tiff 形式 8 ビットの画像圧縮アウトプット：画像によっては Tiff の圧縮アウトプットファイルが元のファイルよりサイズが大きくなる。これは画像の内容によります。
 - 一括処理作業中の作業進行状況表示バーが実際の進行状況と食い違う。
 - 《失敗》エラー、または《API ステータスが不明： x x (数字) 》メッセージが出る。
 - 画像が何らかの理由で処理不可能な場合にエラーが出ます。
解決方法：画像の補正処理を再度行ってください。
 - ファイル名、及びファイルパスに“&”が使われている画像の処理は出来ません。
- 《ビューワ》
 - 《全てのバッチ処理》を選択すると、スクロールバーが使えません。
- 《ヘルプ》がヘルプメニューから利用できない。
ユーザーズガイド (リファレンスマニュアル) は、DxO Optics Pro v4 のフォルダの“Doc (文書) ”フォルダに入っています。
- 《言語選択》のドロップダウンメニューで、正しく表示されない言語があります。
- キヤノン製カメラの Tiff 形式画像にあるメーカーノートは、DxO Optics Pro で処理された後、標準的 Exif リーダーツールで読めなくなります。
- ニコンキャプチャ / ニコンビューワに関して：

- ニコンキャプチャを使って回転した後、DxO Optics Pro で補正処理され、Tiff 形式で保存された JPEG 画像は、再びニコンキャプチャで開くことが出来ません。
- ニコンキャプチャを使って回転した後、DxO Optics Pro で補正処理された JPEG 画像のサムネイルは、ニコンキャプチャで再び開いたとき正しく回転されていません。
- ニコンキャプチャまたはニコンビューを使って回転した後、DxO Optics Pro で補正処理され、Tiff 形式で保存された RAW 画像のサムネイルは、ニコンキャプチャ またはニコンビューで再び開いたとき正しく回転されていません
- プラグインに関して
 - DxO Optics Pro を使って DNG 形式で補正処理されたファイルをフォトショップにインポートすると、エラーメッセージが出る。
解決方法：《OK》ボタンをクリックすれば、画像はカメラのRAW情報と一緒にフォトショップ内に正しくインポートされます。

お客様へのお願い:

- DxO Color パネルで補正を行うとき、パネル内で表示されているのと同じ順番で補正作業を行ってください。(補正項目をリストの一番上から順番に適応。)
- ジオメトリ補正中、キーストーン / 水平補正をする前に、まずディストーション補正の設定を、スライダーまたはボタンで行ってください。
- カスタム ICC プロファイルをインポートする際に、お客様の使っているプロファイルで定義されたカラーレンディングを変えたくない時は、マルチポイント カラーバラン スツールと《ポートレート》と《景色》の2つのカラーモードを使わないでください。